

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時では、一人一人の児童が分かったことや気付いたことを考え、カードに記入する時間をできるだけ多く確保する。その活動の際、指導者は、どの子がどんなことを考え、どこでつまづいているのか、把握することができ、考え方のヒントを出すなど適切な支援をする機会とすることができる。

全ての児童が自分の考えを出し合う時間を設定するため、学級の児童数が多い場合は、本時案のようにグループで交流し、まとめさせてから学級全体で話し合う場面を設定する。グループの人数構成は、発達段階からも4人以下がよい。

カードを見せながら発言することは、聞いている児童にとって、話し手の児童の意図が伝わりやすい。さらに、グループの考えを分類し、整理する方法にも活用することができる。

また、学級全体の話し合いでは、指導者がグループによる交流の様子から一人一人の児童の意見を把握し、本時の学習のねらいが達成されるように、授業の流れ（発表させる順なども含めて）を組み立てる必要がある。

授業の終わりには、ノートに書く作業等を通して、今日の授業で分かったことやがんばったこと等を一人一人の児童に振り返らせるとともに、学級全体で本時の学びを共有できるように工夫する。

「活用」の力を育てる評価の視点

この「あそびしらべ」は、調べた情報をどのように整理し、分類し、表現するかを学ぶ学習単元である。

本時は、表やグラフによる整理・分類、表現のよさや、その表やグラフからどのようなことが分かるかを考えさせることを大切にしている。また、その考えを友達と伝え合うことを通して、自分の考えを深めることも重要視している。

本時における評価のポイントを示すと次のようになる。

- ①表やグラフのよさ、表やグラフから分かったことを相手によく分かるように記述し、伝えることができたか。
- ②自分の考えと比べながら相手の考えを聞き、出てきた意見を整理・分類することができたか。
- ③表やグラフのよさ、表やグラフの特徴を理解することができたか。
- ④本時の学びをねらいにそって振り返ることができたか。

指導者から見た評価だけではなく、児童自身が自己の学びを評価する機会を設定することが大切である。

HOME

本時の流れへ

評価問題

板書例

あそびしらべ

ひょうやグラフから
どんなことがわかりましたか。
どんなことに気づきましたか。

めあて

しっかり かんがえよう
はなそう
きこう

いちばんすきな
あそびは

女の子がすきな
あそびは

ひょうに すると

グラフに すると

あそびしらべのひょう

あそびしらべのグラフ